

## 新島の火山活動解説資料（令和5年5月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

22日から、利島付近を震源とする地震の増加がみられ、26日から27日にかけては新島付近でも一時的に地震が増加しました。この地震活動に伴う、火山活動の特段の変化は認められませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図2-③④、図4）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 新島 丹後山周辺の状況  
（5月24日、式根監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

今回の火山活動解説資料（令和5年6月分）は令和5年7月10日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日（観測開始）～ 瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内
B型地震	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南上下動振幅0.8 $\mu$ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南上下動振幅4.0 $\mu$ m/s以上

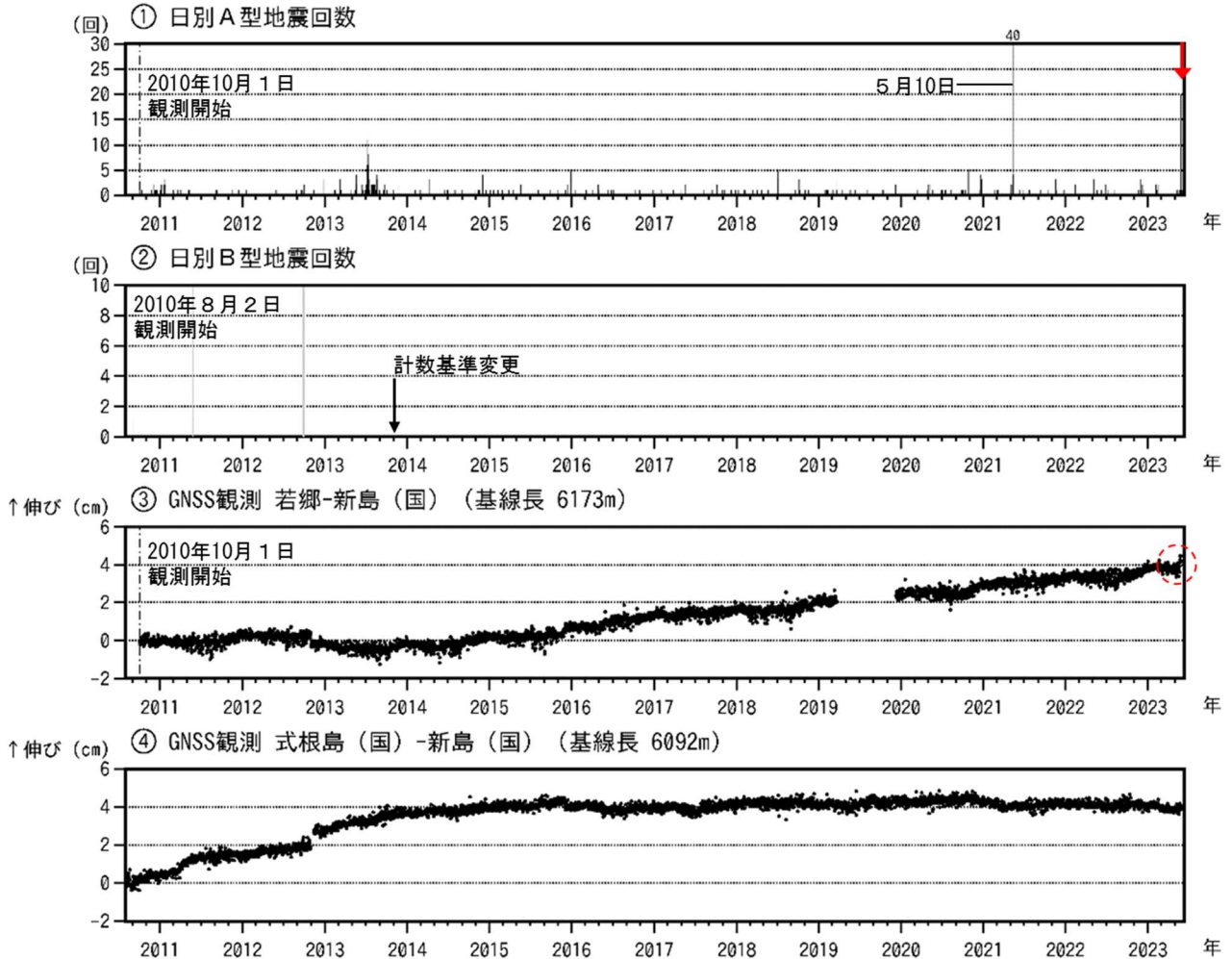


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2023年5月31日)

②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

③、④のグラフは図4のGNSS基線③、④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・ 22日から利島付近を震源とする地震の増加がみられ、26日から27日にかけては新島周辺でも一時的に地震が増加（赤矢印）しましたが、この地震に伴う、火山活動の特段の変化は認められませんでした。
- ・ GNSS連続観測では、22日の地震に伴うと考えられる変化が認められます（赤丸）。

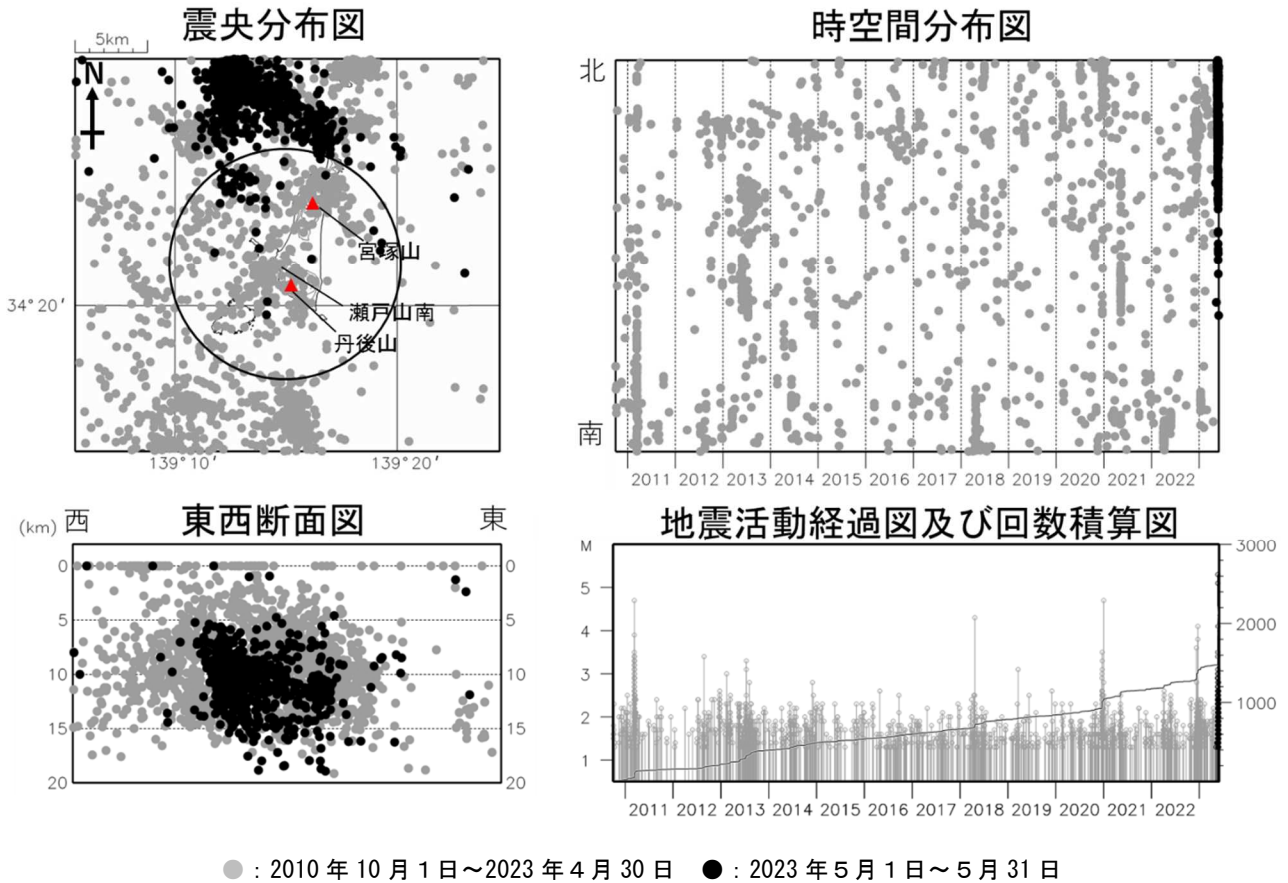


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010年10月1日～2023年5月31日）  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。  
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。  
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

・22日から増加した地震の震源深さは概ね5～15kmに決まっています。

